

令和7年度使用  
中学校用教科用図書  
採択参考資料

音 楽

一般

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
17 教出	音楽 017-72・017-83・017-84
27 教芸	音楽 027-72・027-82・027-84

器楽合奏

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
17 教出	器楽 017-72
27 教芸	器楽 027-72



# 音 楽

## I 教科用図書の調査研究に当たって

### 1 調査対象教科用図書

17 教出 27 教芸

### 2 調査研究の観点

- (1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 音楽の記号及び用語、図や写真、挿絵等が適切であり、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などと関連付けやすいよう配慮されているか。

### 3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

## II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(3)
  - ① 領域や各活動のページ数と我が国や郷土の音楽、諸外国の音楽等が扱われている楽曲数
  - ② 我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽の楽曲数
  - ③ デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数
- (2) 学習指導要領に関する事…………… 観点(1)
- (3) 実生活との関わり、興味や関心について…………… 観点(2)
- (4) 表記や表現、資料等に関する事…………… 観点(4)

1 概括的な調査研究

(1) 領域や各活動のページ数と我が国や郷土の音楽、諸外国の音楽等が扱われている楽曲数

○「A表現（歌唱、創作）」及び「B鑑賞」のページ数

領域	活動	1年	2・3年上	2・3年下	合計
A表現	歌唱	52	45	41	138
	創作	5	4	4	13
B鑑賞		24	29	31	84

※巻頭、巻末の楽曲を含む。

○「A表現（器楽）」の楽曲数とページ数

A表現	器楽	リコーダー		ギター		和楽器		アンサンブル	
		曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数
		27	19	6	11	13	34	24	34

(2) 我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽の楽曲数

1年	2・3年上	2・3年下	器楽	合計
16	17	5	18	56

※我が国や郷土の音楽は、我が国のわらべ歌・民謡・古謡・長唄・雅楽・我が国の伝統楽器を使用した音楽、諸外国の音楽は、諸外国の遊び歌・民謡・民族音楽・伝統芸能とする。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2・3年上	2・3年下	器楽	合計
14	13	11	24	62

2 学習指導要領に関すること

- 一般教科書に、1年間の学習の見通しが「学習マップ」として見開きで示されている。
- 全ての教科書で、歌唱、器楽、創作、鑑賞の内容が関連付けて構成されている。
- 一般教科書に、すすんで学び合うための活動例が「Active!」として示されている。
- 主要教材と関連のある教材が「比べてみよう」として示されている。
- 生徒が直接教科書に言葉で書き込むことができる欄が設定されている。
- 声や楽器を取り入れた活動が「Let's Try!」として示されている。
- 歌うためのワンポイント・アドヴァイスが「Sing!Sing!」として示されている。
- 他者と協働する活動が「話し合おう」として示されている。
- その教材において新出した〔共通事項〕に示された用語や記号等が示されている。
- 共通教材が、「日本の歌 みんなの歌」として各学年に配置されている。
- 創作教材において、活動の手順が示されている。
- 鑑賞教材において、聴く際の道筋となる主な旋律、演奏している楽器等が示されている。
- 鑑賞教材において、作曲家やその音楽が作られた背景等の説明が記されている。
- 我が国や郷土の音楽において、表現と鑑賞を関連付けた活動が設定されている。
- 全ての教科書に、我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽が示されている。
- 器楽の教科書に、「題材」と「題材のまとめの曲」が設定されている。
- 器楽の教科書に、「唱歌について」のページが設定され、和楽器の種類ごとに例示するとともに、和楽器の楽譜に口唱歌（唱歌）が表記されている。
- 器楽の教科書に、学びを深めるための活動が「深めてみよう」として示されている。
- 器楽の教科書に、器楽と創作を関連付けた教材が示されている。
- 道徳等、他教科との横断的な学習に配慮した教材が示されている。

### 3 実生活との関わり、興味や関心について

- 一般教科書の巻頭ページに、各分野のプロフェッショナルのインタビューやメッセージが示されている。
- 2・3年上に、「私たちの暮らしと音楽」のページが設けられ、著作権についての内容が掲載されている。
- 2・3年下に、音楽を通して教育や福祉の場と関わる活動について掲載されている。
- 一般教科書に、楽曲の一部の自筆譜とともに、作者の思いを知るための文章が示されている。
- 創作では、CMソングや日本語の抑揚を生かした教材等を用いた、実生活と関わりのある題材が設定されている。
- 全ての教科書に、「SDGs」との関連を配慮した教材が掲載されている。
- 指揮等、体を動かしたり伝統芸能を体験したりする活動が取り入れられている。
- 器楽の教科書の巻頭に、さまざまな楽器を演奏している写真が見開きで示されている。

### 4 表記や表現、資料等に関すること

- 全ての教科書でAB版となっている。
- 全ての教科書の表紙は、教科書ごとに色分けがされ、これから取り組む教材や楽器をイメージしたイラストが描かれている。
- 一般教科書の目次は、領域・分野ごとに示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。
- 二次元コードの中央に、「見る」「聴く」「記録する」「知る」のマークが示されている。
- 学習活動の見通しをもたせるキャラクターの言葉が示されている。
- 鑑賞教材のページの端に、「音楽年表」が示されている。
- 一般教科書の巻末に、鑑賞の参考となる楽器の写真や年表等の資料が、折込を利用して掲載されている。
- 全ての教科書の巻末に、「楽典」として〔共通事項〕がまとめられている。
- 一般教科書に「日本の歌 みんなの歌」と「歌のアルバム」が掲載されている。
- 関連した教材や資料、発展的な内容を表すマークが示されている。
- 和楽器のページにおいて、五線譜以外に縦譜や文化譜が掲載されている。
- 器楽の教科書の巻末折込に、リコーダーの運指やギターとキーボードのコード表が掲載されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域や各活動のページ数と我が国や郷土の音楽、諸外国の音楽等が扱われている楽曲数

○「A表現（歌唱、創作）」及び「B鑑賞」のページ数

領域	活動	1年	2・3年上	2・3年下	合計
A表現	歌唱	48	44	43	135
	創作	6	6	4	16
B鑑賞		25	33	36	94

※巻頭、巻末の楽曲を含む。

○「A表現（器楽）」の楽曲数とページ数

A表現	器楽	リコーダー		ギター		和楽器		アンサンブル	
		曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数
		19	20	2	10	13	32	17	25

(2) 我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽の楽曲数

1年	2・3年上	2・3年下	器楽	合計
11	17	12	15	55

※我が国や郷土の音楽は、我が国のわらべ歌・民謡・古謡・長唄・雅楽・我が国の伝統楽器を使用した音楽、諸外国の音楽は、諸外国の遊び歌・民謡・民族音楽・伝統芸能とする。

(3) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

1年	2・3年上	2・3年下	器楽	合計
46	43	35	44	168

2 学習指導要領に関すること

- 全ての教科書に、1年間の学習内容と3つの資質・能力との関連が見開きで示されている。
- 全ての教科書で、歌唱、器楽、創作、鑑賞の内容が関連付けて構成されている。
- 教材ごとに学習目標と、具体的な学習活動例、「考えたいポイント」が示されている。
- 学習内容や手順が「学びのコンパス」として示されている。
- 生徒が直接教科書に言葉で書き込むことができる欄が設定されている。
- 一般教科書に、発声に関わる内容が「My Voice!」として示されている。
- 〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素が、各ページに文言で示されている。
- その教材において新出した〔共通事項〕に示された用語や記号等が示されている。
- 共通教材が、「心の歌」として各学年に配置されている。
- 授業で学んだことを振り返る活動が「音楽の学びを振り返ろう」として巻末に示されている。
- 創作教材において、活動の手順が示されている。
- 鑑賞教材において、聴く際の道筋となる主な旋律、演奏している楽器等が示されている。
- 鑑賞教材において、作曲者やその音楽が作られた背景等の説明が記されている。
- 我が国や郷土の音楽において、表現と鑑賞を関連付けた活動が設定されている。
- 全ての教科書に、我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽が示されている。
- 諸外国の音楽と聴き比べる教材が「聴き比べよう」として示されている。
- 器楽の教科書に、和楽器の種類ごとに唱歌の説明が示され、和楽器の楽譜に口唱歌（唱歌）が表記されている。
- 器楽の教科書に、「打楽器」の項目が設定され、15種類の楽器の奏法等が示されている。
- 器楽の教科書に、器楽と創作を関連付けた教材が示されている。
- 道徳等、他教科との横断的な学習に配慮した教材が示されている。

### 3 実生活との関わり、興味や関心について

- 全ての教科書の巻頭ページに、各界のプロフェッショナルや著名人のインタビューやメッセージが示されている。
- 1年と2・3年下に、「ルールを守って音楽を楽しもう！」のページが設けられ、著作権についての内容が掲載されている。
- 一般教科書に、音や音楽の果たす役割や音楽に関わる仕事等が、「生活や社会の中の音や音楽」として示されている。
- 震災からの復興をテーマにした楽曲が掲載されている。
- 創作では、俳句や風景を教材とした、実生活と関わりのある題材が設定されている。
- 2・3年下に「SDGs」と関連したコラムが掲載されている。
- 指揮等、体を動かしたり伝統芸能を体験したりする活動が取り入れられている。
- 全ての教科書に、中学生が郷土の祭りや芸能の担い手として活躍する様子が掲載されている。

### 4 表記や表現、資料等に関すること

- 全ての教科書でAB版となっている。
- 全ての教科書の表紙は、続き絵になっており、音や音楽と関わる中学生の様子がイラストで描かれている。
- 一般教科書の裏表紙に、郷土の祭りや芸能の写真が掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。
- 二次元コードとともに、「動画」「音源」「創作ツール」「画像」「文章、ワークシート」のマークが示されている。
- 学習活動の見通しをもたせるキャラクターの言葉が示されている。
- 西洋音楽の鑑賞教材のページに、「+α」として年表が示されている。
- 我が国の伝統的な歌唱の教材において、演奏者からのアドバイスが示されている。
- 全ての教科書の巻末に、「音楽を形づくっている要素」の内容と、[共通事項]をまとめた「音楽の約束」が示されている。
- 一般教科書に「歌い継ごう 日本の歌」と「心通う 合唱」が設定されている。
- 和楽器のページにおいて、五線譜以外に縦譜や文化譜が掲載されている。
- 器楽の教科書に、リコーダーの運指やギターとキーボードのコード表が掲載されている。
- 器楽の教科書の巻末に、楽器の図鑑が掲載されている。

